



中国陸運

家族サービスに貸し出し

食品輸送をメインに手掛ける中国陸運(西尾義輝社長、広島県廿日市市)が福利厚生の充実化を進めている。8月初旬に購入したトヨタの高級ミニバン・アルファードは当初、「会社行事などで、社

員らがまよまよって移動する手段として考え「せっかく買っただけだから、みんなが自由に使えるようにすればいいのでは」と、グループ3社で働く約300人の従業員を対

象にした無料の貸し出し制度を開始した。「子供がやっている野球の遠征試合の応援に行きたいので...」と、9月下旬の時点でドライバークラスの従業員の利用は5回ほどという。また、「馴染んでくれば、

どんどん利用頻度は高まると思う。使える機会を平等にするため、岡山県にある営業所から要望があった場合も同様に対応する」とのこと。9月末には家族で大阪へ旅行に行きたい」という岡山の事業所に勤務する従業員の元に届けられた。

さらにユニークなのは、同じく今年8月か(長尾和仁) (レイアウト・小西克弥)

ら始めたテント、調理器具などのキャンプ用品の貸し出しサービス。車両と一緒に借りることで、家族そろって気軽にアウトドアが楽しめる格好だ。年度替わりとなる10月を迎え、「今期はハイエースのワイドロング車を購入する予定。その後も車両のバリエーションを増やすなど、多様な利用目的に応じられるようにしていきたい」と社長。

一方、グループで約150台の車両を保有する同社は、所属する各事業所を1つのチームとしてドライバーがデジタコの点数に基づいて「安全運転ランキング」を競うキャンペーンを半期に1回の割合で実施。ちなみに、今年6月の4週分のデータが評価材料となった前回は、各チームの成績トップ6人に4Kテレビ(アコス50インチ)、2位の6人にはダイソンV8が贈られた。

次回の同キャンペーンは来年1月の予定だが、「日ごろの安全運行と省エネ運転を給料以外で評価するのが目的。ドライバーの意識向上につながることを期待している」と(同社長)と話している。